# 第５回　これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議　議事要旨

１　**日時**　　令和６年 12 月 23 日（金）　10 時～12 時

２　**場所**　　神戸市総合教育センター　701 号室

３　**出席者**　浅野良一会長、井上和彦委員、鴨井幸造委員、佐合純委員、舩木伸江委員、野村和宏委員
（岡田恵実委員はオンライン参加）

４　**議題**　　意見のとりまとめ（案）

５　**主なご意見**　「これからの市立高校の方向性」について

①　キャリア教育の充実

・高校生の場合、外部との接点を増やす前に、自分自身に向き合うことを丁寧にやる必要がある。地域課題や社会課題に対して、自分ならどう取り組んでいくか考えることがステップになる。

・社会課題に対して、生徒が周りの誰かに相談する中で、自分がどういうことができるか、何か思うことができればキャリア教育の第一歩になるのではないか。

・日本人は改善を積み重ねることが得意なので、若いうちから生成ＡＩを使いこなせるようになれば、日本企業の改善が進むと思う。時間が圧倒的に節約できるので、多くの社会課題に取り組ませることができるのではないか。

・高校３年間で少なくとも「自分自身はこうだ」と言えるようになり、その上でお互いの優れたところを認め合えるベースを作っていく必要がある。市立高校５校でそれぞれの良いところを伸ばしていけばいいと思う。

・キャリア教育は高校で完結するものではなく、長いスパンで考え、繰り返し取り組んでいく必要がある。

・生徒の主体性を引き出すためには興味を持たせることが重要。高校生に身につけてほしい「起業家マインド」は、高い意欲を持ち、課題解決に向けて主体的に取組む姿勢や意識ではないかと思う。

②　文理融合型探究

・神戸市のそれぞれの地域の課題を知り、自分なりの考えを持つことが大切である。地域の高校を出て、そこで働き、地域を担っていくような人材を育成することも大事にしないといけないのではないか。

・生成ＡＩを使いこなしてたくさんの社会課題を意識させ、フィールドワークも取り入れながら地域について考えることが、よいプログラムになるのではないか。

・生成ＡＩの使い方のレベルに差があるので、探究学習の実践の中で工夫しながら使っていくことが良いと思う。

・昔から培われた農漁業の知見・技術にＩＴを掛け合わせれば、可能性が広がる。市立高校で一次産業の未来について考えることも特色につながるのではないか。

・マイクロソフト社の拠点が神戸にあることも、神戸ならではの学びに活かせるのではないか。

・できるだけ多くの生徒が地域に出て、自分たちの得意なことを子供や高齢者に伝えるなど、自信がつくような経験をしてもらいたい。

・探究学習のテーマとしては、自分事になっているテーマを設定することが大事である。

③中高一貫教育・高大連携の検討

・中高一貫教育では高校受験が無いため、目標を持って教育活動に取り組みやすいのではないか。６年間で発展性を持たせるようなカリキュラムも組みやすいと思う。一方で、受験がないことで学びの習慣が身につかないような場合もありうる。

・進学は３年ごとに自分自身を見直す節目になり、環境が変わることで多様性を育むことにもつながる。私学に多い中高一貫教育を公立として行うならば、単に中学受験の選択肢を増やすということではなく、神戸市が目指す人材の育成のために不可欠であることを明確にする必要があるのはないか。

・市民にも伝わりやすい神戸市ならではの取組みとして、例えば、英語を活用した国際バカロレア教育に取り組もうとすると３年では難しいので、６年かけて取り組むようなことは考えられる。

・中高一貫教育で国際、科学、芸術などの特化した分野に力をいれると、生徒や保護者も魅力的に感じるのではないか。その際にキャリアパスを明確に示すことができれば良い。

④普通科のあり方

・高校の普通科は、将来社会に出た際に必要となる様々な分野の基礎知識等（リベラル・アーツ）を横断的に学ぶ場として大切であり、学ぶ内容もバランスが取れていて良いと思う。

・多様性を重視する観点からすると、様々な興味関心を持った生徒が集まる普通科で、さらに生徒が学びを選択できる単位制が、より望ましいと感じる。

・社会では、普通科という名称が「特色がない」という印象で受け取られがちなので、生徒目線で新しい名称に変えてみてはどうか。

・普通科の枠組みでは入試においても制約が大きい。学際的な学科への改編も含め、現在の枠組みから抜け出すことも考えてみてはどうか。